

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。

1:19 夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。」

1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。

1:23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

1:24 ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、

1:25 子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。

イエス様の誕生は、全能の神様が人類の救いのために計画なさった、すばらしくも不思議なみわざです。それは世の基が定まる前からのご計画であり、また旧約聖書に明記されていたものです。

またイエス様の誕生は、無限永遠絶対の神様が人となって、有限の世界に生まれ、人として弱者となられたという、驚くべき出来事です。そして何より、人として全人類の罪を背負って刑罰を受けてくださったという、感謝に耐えない驚くべき恵の始ま

りでもあります。

そのような救い主の誕生が、極めて少数の人々の信仰によっているということは、考えると不思議であり、また非情に不確実な感じもします。神様はご自分の御心になつた人を知っていて、そのような人に大切な働きを託されるのです。

神様が人となってお生まれになる…。その出産をするのは、当然人間しかあり得ません。マリアはその大切な役目を全うしたのであり、ヨセフはその夫という役目を全うしました。同じように私たちもまた、神様が人の世界にみわざを行うという役目を担っています。伝道にしる愛の行いにしる、神様の使命を行うのは天使ではなく人間にしかできないことなのです。

マリアは命をかけて、使命を果たす決心をしました。またヨセフも人生をかけて、また名誉を捨ててその決断をしました。彼らに倣って、私たちも主の御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

